

標準委員会 システム安全専門部会 統合的安全性向上分科会  
第1回統合的安全性向上分科会議事録

1. 日 時 2016年10月27日 (木) 13:30～17:20

2. 場 所 東京大学 工学部8号館 502教室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 成宮主査 (関電), 上野副主査 (三菱総研), 倉本幹事 (NEL),  
伊藤委員 (中部電), 大塚委員 (東京電; 15 時頃退席),  
河井 (原安進; 鈴木委員代理), 丸末 (日立 GE; 曾根田委員代理),  
高橋委員 (MHI), 佐藤 (関電; 中野委員代理), 中村委員 (原電),  
中村委員 (JAEA), 平川委員 (原安進), 三村委員 (東芝), 村上委員 (東大)  
(14名)

(常時参加者) 伊藤 (規制庁), 江藤 (九電), 香川 (四電), 鎌田 (原安進),  
熊坂 (原安進), 小林 (北海道電), 杉山 (三菱総研), 田辺 (東京電),  
田原 (東芝), 中野 (MHI), 西村 (電源開発), 根岸 (原電エンジ),  
林 (関電), 東山 (NEL), 古館 (東北電), 鈎 (関電),  
森脇 (中国電), 山口 (東京電), 山中 (原電)

(19名)

4. 配付資料

S3SC1-0 安全性向上分科会 (仮称) 第1回分科会 議事次第, 座席表

S3SC1-1-1 人事について

S3SC1-1-2 委員・常時参加者名簿 2016/10/27

S3SC1-2-1 安全性向上分科会 (仮称) の設置について (STC37-6)

S3SC1-2-2 第37回システム安全専門部会議事録 (案) (STC38-1) (抜粋)

S3SC1-3 RIDM標準の検討方針案及び構成案

S3SC1-4 PSR+指針の実適用に係る検討方向性 (案)

S3SC1-5 安全性向上分科会 (仮称) 検討スケジュール案

参考資料

S3SC1-参考1 原子力学会標準委員会活動説明資料

- (1) 原子力学会の行動指針・日本原子力学会倫理規定
- (2) 標準委員会の活動基本方針
- (3) 標準委員会規程
- (4) 標準委員会運営細則
- (5) 標準委員会審議要領
- (6) 標準作成の手引き: 2015
- (7) 転載許諾マニュアル

S3SC1-参考2 リスク情報活用ガイドライン分科会の活動状況について

S3SC1-参考3 安全性向上対策採用の考え方に関するタスクの報告書の概要

S3SC1-参考4 原子力学会倫理教育資料

- (1) 標準委員会の活動基本方針（標準の品質確保活動説明会向け資料抜粋版）
- (2) 行動指針と倫理規定について

## 5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 14 名中 14 名が出席しており、分科会成立に必要な定数を満足している旨が報告された。

### (1) 資料確認 (S3SC1-0)

議事次第に基づき、配布資料の確認を行った。

### (2) 人事について (S3SC1-1-1, S3SC1-1-2)

委員の互選により、主査の選出を行った。投票の結果、成宮委員 11 票、村上委員 2 票、中村委員 (JAEA) 1 票となり、成宮委員が主査に選任された。主査指名にて、副主査は上野委員が指名され、主査と副主査の協議により、幹事は倉本委員が指名された。

常時参加者の新任 (S3SC1-1-1) については、出席委員全員の同意で承認された。

また、成宮主査より、専門部会において、人事上、業種として電力事業者 (35%超) に偏りがあることの指摘があったが、特に縛りがあるものではなく、引続き学識者等に参加をお願いしていく旨回答していることの紹介があった。

### (3) 標準委員会活動説明 (S3SC1-参考 1)

倉本幹事より、標準委員会規程、運営細則ほかルールの紹介があった。

### (4) 安全性向上分科会 (仮称) 設置趣意確認 (S3SC1-2-1, 1-2-2)

倉本幹事より、本分科会の設置趣意確認が行われた。リスク情報活用標準 2010 の制定から 5 年以上経過しており、また震災以降リスク活用の実務への適用が具体化していくことから、PSR 分科会を発展解消して安全性向上分科会を設置した上で、PSR 分科会で担っていた PSR+指針に加えて、RIDM 標準を議論していくことを趣旨としていくこと、当面の活動とスケジュールが紹介された。

また、上部のシステム専門部会で、取り扱う範囲、上部専門部会がリスク専門部会でなくてよいか、分科会名称について、質問が上がったが、大きなコメントはなかったことが紹介された。

(5) 分科会名称について

委員より「安全性向上は他の分科会や作業会などでも行うものである」「統合的意思決定分科会のような名称が相応しいのではないか」「継続的であることを明示してはどうか」「オンラインメンテナンスも扱う予定があるのか、あるならそれも念頭にすべきでは」「PSR+もRIDMもマネジメントであり、マネジメントを名称に入れてはどうか」という意見が挙げられた。

成宮主査より「作成を目指す標準が2つあり、誤解をされない文言で、コアとなる意義を表すことが必要。いろいろ意見はあるが、『統合的安全性向上分科会』としたい」とされた。

(6) 検討の参考となる文献確認 (S3SC1-参考2, 参考3)

成宮主査, 河井委員代理より, 参考文献の紹介があり, 委員の理解の深化と平準化が行われた。

(7) RIDM 標準 (仮称) の検討方針案及び構成案, 標準名称について (S3SC1-3)

倉本幹事より, RIDM 標準の検討方針案及び構成案の説明があった。また, 委員をリーダーとして常時参加者も加わったチーム分けをして, 各パートで詳細検討してはどうかとの提案があった。

平川委員より, 「資料 S3SC1-3 の 1 ページ目で, 階層的に示すことを志向するとあるが, IAEA の SSR のような具体的な構造要素が分からない」との意見があり, 主査以下再考することとなった。また, 「目的の位置は考えるべき。」「コミュニケーションは共通事項であるため, 別の項でもよい」「文書化はレビューも含むのか」などの意見があった。なお, 標準名としては, 提案通り, 「原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意志決定に関する実施基準: 201X」となった。

(8) PSR+指針の実適用に係る検討方向性 (S3SC1-4)

倉本幹事より, PSR+指針は 2015 年 10 月に発行されたが, 実適用するには更なる記載の充実が求められるが, まずは, ステップ 1 として国内外の文献調査, ステップ 2 として具体的例示の取纏め・サンプル作成を行いたいとの説明があった。また, 委員をリーダーとして常時参加者も加わったチーム分けをして, 各パートで詳細検討してはどうかとの提案があった。

(9) 今後の進め方 (S3SC1-5)

RIDM と PSR+について, ボリューム的には RIDM が大きいですが, チーム分けをして詳細検討を進めていくので, 各委員, 各常時参加者は, 両方もしくは一方に参加するよう, 希望調査をすることが伝達された。

次回は 12/21 (水) もしくは 12/22 (木) に開催することとし、それまでに、RIDM については基本的要求事項案の作成をチームごとに進めていくこととなった。

(10) 原子力学会倫理教育の実施 (S3SC1-参考 4)

成宮主査より、原子力学会倫理教育が行われた。

以上